



令和4年度 西東京市立柳沢中学校 学校経営方針

令和4年4月1日

西東京市立柳沢中学校

校長 浅野 周子

1. 経営方針

国や東京都教育委員会、「西東京市教育計画」、新学習指導要領を踏まえ、本校の教育目標の実現を目指し、生徒や保護者、市民の期待や信頼に応える魅力ある学校を創造する。

生徒及び教職員の個性と能力を伸ばし発揮させ、グローバル化、AI、soceity5.0、新型コロナウイルス感染症など急激に変化し予測困難な社会において、新しい価値を創造して課題を解決する力を身に付けさせ、社会で活躍する人材育成を目指して組織的な教育力の向上を図りながら、特色ある教育活動を推進する。

柳沢中学校の教育目標

変化する社会の中で、学校教育を通じてよりよい社会を創るため、以下のような目標を設定する。

- 広い視野をもち勉学に励む人間 「問題発見・解決能力」
- 思いやりのある人間 「人間関係形成力」
- 心身ともに健康な人間 「豊かな人生を実現させる力」

目指す学校像 「最良・最善のスタンダード教育」の実現を目指して

「全ては、子どもたちの未来のために」を合い言葉に、全教職員が一枚岩となって協働する学校

「チーム柳沢中」として笑顔が溢れる学校

- ・生徒一人一人が主役となり、生き生きとした活動で溢れる学校
- ・生徒が安心して学べる「生命尊重教育」を基軸として信頼で溢れる学校
- ・生徒が意欲をもち、「わかった、できた、楽しいー学びの達成感」が溢れる学校
- ・教職員が、自信と誇りをもって教育活動に取り組み、明るく活気に溢れる学校
- ・保護者から、安心、安全、安定の学校として任せられ、信頼で溢れる学校
- ・地域から理解・協力を得ながら、地域の子どもたちを地域と協働して育てる学校

目指す生徒像

- ・自己実現に向け、自ら考え進んでやり抜く心と体をもつ生徒
- ・自他を尊重し、正しい判断に基づき責任を重んじ他者と協力する生徒
- ・伝統と文化を尊重し、自然と郷土を愛し、広く社会に貢献しようとする生徒

目指す教師像

- ・生徒の心情に共感し理解し励まし支援する教師 深い生徒理解→情報共有
- ・生徒がわかりやすい授業を実践し、生徒の学ぶ意欲を引き出す教師 授業力、向上心、
- ・生徒の豊かな感性と良さを引き出し、自己実現を支援する教師 理想の実現→出藍の誉れ

2. 実現のためのキーワード

挨拶 尊重 対話 創造

3. 実現のための5つの柱

- (1) 一人一人の「生きる力」を育む、きめ細やかで温かい教育の推進
- (2) 一人一人の「自ら主体的に学ぶ力」を育む、確かな授業の推進
- (3) 一人一人の「豊かな人間性」を育む、質の高い自主的活動・体験学習の推進
- (4) 教えるプロとしての自覚(法令遵守)に基づく「活力溢れる教職員組織」の構築
- (5) 学校・保護者・地域が三位一体となった「行動連携」「双方互惠関係」の構築

4. 本年度の具体的な取組

(1) 一人一人の「生きる力」を育む、きめ細やかで温かい教育の推進

全教育活動を通して「命の尊さ」の教育活動を推進し、生涯に渡り自他の生命尊重・人権尊重の精神を基軸とした「たくましく生きる力」の育成を図る。その具現化のためには、小規模校の良さを活かし、生徒との心の触れ合いと深い生徒理解を基軸として「良いことは良い」「だめなことはだめ」と、時に優しく時に厳しく「愛と厳に溢れる」確かな指導を実践する。生徒自らの判断力向上を目指し、物事を最後までやり遂げる、たくましさをもった生徒を育成する。

<具体的な取組>

- ① 全教育活動を通して、互いの人格を尊重し、認め高め合える生徒集団を育成する。
- ② 生活指導部の基本方針を基に、全校体制で生徒の規範意識の確立を図る。
・『あ・じ・み・こ・し』（挨拶・時間・身だしなみ・言葉遣い・姿勢）を生活目標に設定し、教育活動全体を通して組織的な取組をする。
- ③ いじめ防止基本方針に基づき、いじめ撲滅に全力を挙げて取り組み、「いじめゼロ」を実現する。
・いじめ防止対策委員会を基軸とした組織的な取組や生徒アンケート、生徒理解などで人間関係を把握し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解消を徹底する。
・道徳教育・人権教育等を通じた生徒たち自身による「いじめを許さない意思」と「いじめをなくす行動力」を醸成する。 ※自分がされ嫌なことは、ほかの人に絶対にしない。
- ④ 不登校の未然防止、早期発見、初期対応を徹底し、スクールカウンセラーや関係諸機関、スクールソーシャルワーカー、家庭等と連携し、生徒に寄り添った指導を実践する。
- ⑤ 教育相談の充実を図る。
・心のつながりを重視し、生徒の良さを引き出すきめ細やかな生活指導を推進する。
・日常的な生徒との相談活動や学期初めの二者面談、年2回の三者面談を行い、生徒理解や人間関係を把握して生徒指導に生かすとともに、家庭への連絡・連携を密にし、いじめ・不登校などの未然防止、早期発見に取り組む。
- ⑥ 特別支援教育の充実を図る。
・「すべての生徒を対象とする特別支援教育」に関する理解と支援に向けて、人権尊重教育や合理的配慮を踏まえた適切な指導や支援、ユニバーサルデザインの視点に基づいた環境づくりを行う。
・特別支援教育コーディネーターを中心に、校内委員会の充実を図り、迅速な情報共有及び的確な連絡調整を行い、アセスメントシートなどを活用し、個々の生徒の課題に応じた確実な対応と指導体制を構築する。

⑦安全指導を徹底する。

- ・毎月の避難訓練や安全指導、自助共助を主とした防災教育、落ち着いた学習環境を整える環境整備・定期的な安全確認を徹底し、報告・連絡・相談体制を密にした安全指導・安全教育の推進を図る。
安心、安全、安定の学校
- ・事件や事故、自然災害が発生した際、被害を最小限にするために、適切かつ迅速に対処するために危機管理マニュアルを再確認し、全教職員に周知徹底する。
- ・熱中症事故の未然防止を徹底したうえで、保健体育科の授業や体育的行事、部活動、昼休みの外遊び等、教育活動全体を通して体力・健康づくりをすすめる活動の充実を図る。

⑧規律ある生活習慣づくり「健康教育」(食育・薬物乱用防止教室・禁煙講座等)の推進。

※オプティマムヘルス＝年齢・文化・生活環境など自分の置かれた状況の中で、最適で最善の健康を目指すこと

(2) 一人一人の「自ら主体的に学ぶ力」を育む、確かな授業の推進

生涯に渡り、豊かな人生を切り開いていくために「自ら主体的に学ぶ力」を育む。その具現化のために、GIGAスクールの取組を充実させ「主体的・対話的で深い学び」「情報活用教育」を充実させる。

<具体的な取組>

- ①GIGAスクールの具現化を図り、プロジェクタ、タブレット等のICT機器を取り入れた授業改善・教育活動の質の向上を図る。
- ②質の高い最良の授業を目指し、「海洋教育パイオニアスクールプログラムー2年目」<単元開発部門>の研究に取り組み、理科を中心とした授業改善・教材改善に取り組む。
- ③「本時の目標」を明示し、「身に付けさせたい力」を明確にした指導計画・評価計画に基づく意図的・計画的な授業の展開や柳沢中スタンダード「授業デザインする8つの取組」を基にした基本的指導過程を実践する。
※学習者が「何ができるようになればよいか」を理解して授業に意欲的に取り組めるようにし、授業を振り返る活動をとおして学習者が「何ができるようになったか」が分かる授業づくりを行う。
- ④主体的・対話的で深い学びを目指し「アクティブ・ラーニング」(話し合い活動ー学び合い活動など)の手法を積極的に活用した授業改善に取り組み、「言語能力」「情報活用能力」等の資質向上を図る。
- ⑤新学習指導要領完全実施と授業力向上を目指し、本校独自の「シラバス」を全教科で作成する。「個々の生徒の学習力向上」「基礎・基本の定着」を図り、都立高等学校入学希望者の合格率100%を目指す。
- ⑥オリンピック・パラリンピック教育研究校として取組の充実を図る。
- ⑦学校生活を通じて、教員と生徒、生徒相互間の言語環境の整備(具体的には、生徒を呼びすてにせずに、〇〇さんと呼ぶ)
- ⑧学習遅延が心配される生徒へ、個別支援学習を実施し「学習のつまずき」を改善し「基本的な学習スキルの定着」を図り、学習の途切れをゼロにする。
- ⑨学校図書館を有効活用した教科指導・年間を通した朝読書・朝学習を推進する。
- ⑩校内弁論大会・生徒同士の討論会・同じ本を読んで意見を述べ合う学習活動・各教科や体験、調べたことをまとめ、発表し合う発表学習等を推進する。

(3) 一人一人の「豊かな人間性」を育む、質の高い自主的活動・体験学習の推進

全教育活動を通して人権教育・道徳教育を中心とした心の教育を充実させ、「豊かな人間性」「道徳的実践力」を育む教育を推進する。

<具体的な取組>

- ①言語教育環境を向上させ、「潤いのある学校づくり」を推進する。
- ②心の教育の「要」として道徳授業の質の向上を図るために、全教育活動を通して人権教育・道徳教育を充実させ「豊かな人間性」道徳的実践力向上を図る。
- ③道徳の授業と各種行事・各教科授業等との関連性を明確にし、生徒自ら内面的な道徳的価値観を育むことができる教育活動を推進する。特に道徳科においては、「思いやり、感謝」や「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」を重点項目とした道徳科の全体計画並びに年間指導計画に基づき、「考え、議論する道徳」の授業を展開することにより、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育む。
- ④日本の伝統と文化を尊重し、自然と郷土を愛し「社会に貢献する心」の育成を図る。
- ⑤職場体験を通して、地域に働く人々の役割・社会的貢献力・郷土愛等を体験し、社会に貢献する意欲・意識を育む。また、自分の良さを見つけて自らの手で伸ばすことの大切さに気づかせ、将来を見通した望ましい勤労観・職業観を育成する。
- ⑥生徒自ら創り上げる文化的・体育的行事を成功させ、成就感を育む。
- ⑦生徒会を中心として自主的な、挨拶運動・奉仕活動・ボランティア活動に取り組み、社会貢献の基本的行動を学ぶ。
- ⑧保護者・地域と連携した社会体験・社会貢献活動を推進する。

(4) 教えるプロとしての自覚(法令遵守)に基づく「活力溢れる教職員組織」集団の構築

全体の奉仕者である教育公務員という立場を自覚し、法令遵守を基軸とした「厳正なサービスを遂行し、生徒・保護者・地域の信頼にこたえ、活力ある教職員の組織体制を構築する。

<具体的な取り組み>

- ①「個々の生徒に寄り添い・支援する」「西東京あったか先生」を遂行し、確かな信頼を確立する。
- ②「服務事故違反ゼロ宣言」を掲げ、プロの教師として自覚ある職務遂行を行うとともに、授業力向上に取り組み、確かな信頼を確立する。
- ③校務運営の効率化に取り組み、それによって生み出される新たな時間を活用し、生徒と寄り添う指導を充実させる。
- ④各主幹・主任の統括の基、校内分掌の役割分担の整理・スリム化を図るとともに、進行確認・連絡調整を徹底し、適切な教育進行を行う。
- ⑤文書管理体制を整理し、文書保存、管理の一元化を進め学校データベースへの電子ファイル保存を徹底し情報漏洩を防ぐとともに、情報の共有化を進め、業務のスリム化を図る。
- ⑥主幹・主任を中心に中長期的な課題を整理・調整し、主幹（主任）会議・運営委員会・職員会議の時間短縮化を図る。
- ⑦日常的なOJT研修の活性化として、OJTシートを活用し、主幹・主任教諭の役割を明確にした若手教諭へのアドバイス等を常時実施し、教育活動の質の向上を図る。

(5) 学校・保護者・地域が一体となった「行動連携」「双方互惠関係」の構築

コミュニティスクールとして、相互理解に基づいた健全育成推進のために、PTA組織・地域・学校が、三位一体となった取組と行動連携の充実を推進し、「チーム柳沢」を構築する。

<具体的な取り組み>

- ①小中連携の取組を充実させ、小・中一貫指導が必要な教科・生活指導事項の内容確認及び、指導の工夫等の研修・情報交換を行い、9年間を通じた質の高い教育の実践を図る。
- ②合唱コンクールは、武蔵野大学講堂を借用して実施し、地域学校との連携を図る。
- ③運動会・合唱コンクール・道徳授業地区公開講座・地域清掃・土曜日開催行事等において、PTA組織・保谷第二小学校親父の会との協働連携を充実し、双方互惠関係の向上を図る。
- ④周年行事対策員会を中心に協議を進め、10月26日（水）に50周年記念式典を開催し、生徒や教職員、保護者や地域の方々とお祝いするとともに、柳沢中学校の歴史を振り返りさらなる発展を願う。
- ⑤地域清掃・挨拶運動・生徒参加型地域行事等に積極的にに関わり、地域の関係諸機関との連携を推進し、「社会に開かれた教育課程」のカリキュラム・マネジメントを行い、より一層の信頼関係を構築する。
- ⑥本校の教育方針・教育活動等を保護者や地域の方々へ学校公開設定、保護者会・各種お便り・学校ホームページ等を活用した積極的な情報発信を行う。